第９章　就業・経済

１　就業

(1)　就業状況

仕事をしている高齢者は３割弱。
性別でみると、男性では37%、女性では20%の高齢者が仕事をしている。

①　就業状況

現在収入のある仕事をしているかを尋ねたところ、「仕事をしている」が27.4%、「仕事をしていない」が72.5%であった。(表9-1)

性・年齢階級別でみると、「仕事をしている」高齢者は男性では 37.1%で、「65 歳～69 歳」では53.5%と５割を超えている。女性では19.5%で、「65 歳～69 歳」では36.9%であった。男女共に年齢が上がるとともに就業の割合が低くなっている。

表9-1　収入のある仕事の有無－性、年齢階級別、過去調査（昭和60年～）との比較

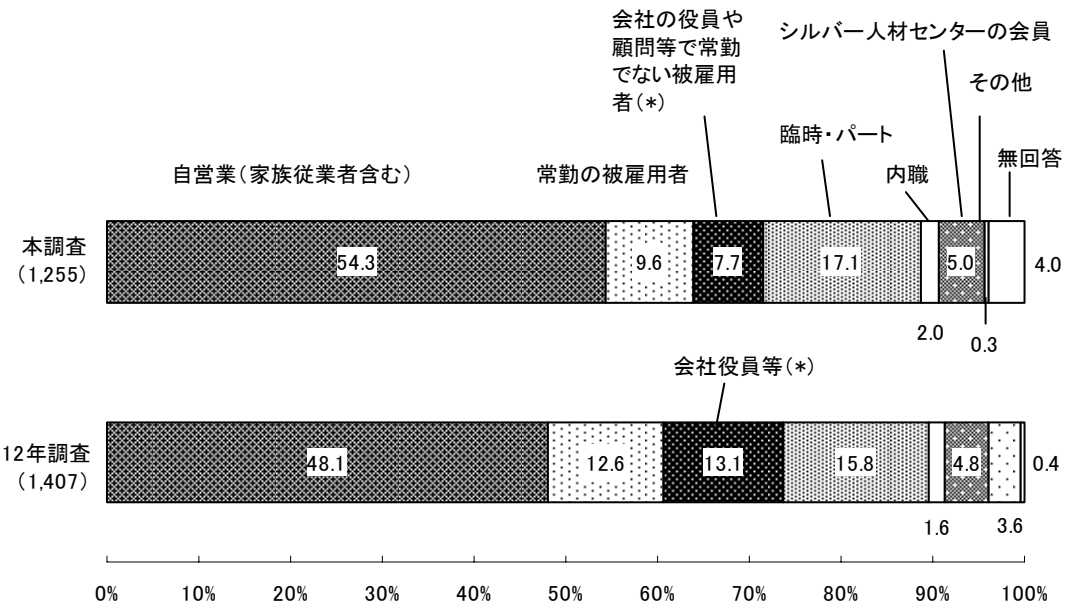
		総数	仕事をしている	仕事をしていない	無回答
総　数		100.0 (4,583)	27.4	72.5	0.1
男		100.0 (2,052)	37.1	62.8	0.1
	65～69歳	100.0 (645)	53.5	46.5	－
	70～74歳	100.0 (610)	38.4	61.6	－
	75～79歳	100.0 (419)	26.7	73.0	0.2
	80～84歳	100.0 (237)	20.7	78.9	0.4
	85歳以上	100.0 (141)	14.9	84.4	0.7
女		100.0 (2,531)	19.5	80.4	0.1
	65～69歳	100.0 (634)	36.9	62.9	0.2
	70～74歳	100.0 (725)	21.0	78.9	0.1
	75～79歳	100.0 (536)	11.2	88.8	－
	80～84歳	100.0 (380)	8.9	91.1	－
	85歳以上	100.0 (256)	5.5	94.1	0.4
《参考》平成12年調査		100.0 (5,086)	27.7	71.8	0.5
平成7年調査		100.0 (8,686)	27.6	72.0	0.3
平成2年調査		100.0 (8,715)	31.8	67.3	0.9
昭和60年調査		100.0 (4,484)	27.4	72.6	－

② 就業の内容

収入のある仕事をしている高齢者に、仕事の内容について尋ねたところ「自営業（家族従業者含む)」が 54.3%と最も高く、次いで「臨時・パート」17.1%、「常勤の被雇用者」9.6%と続いている。(図 9-1)

12 年調査と比べると、「自営業（家族従業者含む)」が 6.2 ポイント（12 年調査 48.1%→本調査 54.3%）増加している。

図 9-1　就業の内容－12 年調査との比較



（注）＊は選択肢の文言を変更したもの

第9章

性別でみると、「自営業（家族従業者含む）」は男性 55.1%、女性 53.0%でともに 5 割を超えており、大きな差はみられない。一方、「臨時・パート」は、男性 11.2%、女性 26.1%で、女性が男性より 14.9 ポイント高くなっている。（表 9-2）

表 9-2　就業の内容－性・年齢階級別

			総数	自営業（家族従業者含む）	常勤の被雇用者	会社の嘱託や顧問などで常勤でない被雇用者	臨時・パート	内職	シルバー人材センターの会員	その他	無回答
総数			100.0 (1,255)	54.3	9.6	7.7	17.1	2.0	5.0	0.3	4.0
性・年齢階級別	男		100.0 (761)	55.1	11.8	10.6	11.2	0.3	6.8	0.1	4.1
		65～69歳	100.0 (345)	46.4	15.4	10.4	14.2	0.3	7.5	－	5.8
		70～74歳	100.0 (234)	56.8	9.8	12.8	12.4	－	6.4	0.4	1.3
		75～79歳	100.0 (112)	65.2	8.0	9.8	6.3	0.9	7.1	－	2.7
		80～84歳	100.0 (49)	75.5	6.1	6.1	－	－	4.1	－	8.2
		85歳以上	100.0 (21)	76.2	9.5	4.8	－	－	4.8	－	4.8
	女		100.0 (494)	53.0	6.3	3.2	26.1	4.7	2.2	0.6	3.8
		65～69歳	100.0 (234)	44.0	9.0	3.0	34.6	4.7	1.3	0.4	3.0
		70～74歳	100.0 (152)	53.3	3.3	2.6	26.3	4.6	4.6	1.3	3.9
		75～79歳	100.0 (60)	70.0	8.3	1.7	10.0	3.3	1.7	－	5.0
		80～84歳	100.0 (34)	67.6	－	8.8	5.9	8.8	－	－	8.8
		85歳以上	100.0 (14)	92.9	－	7.1	－	－	－	－	－

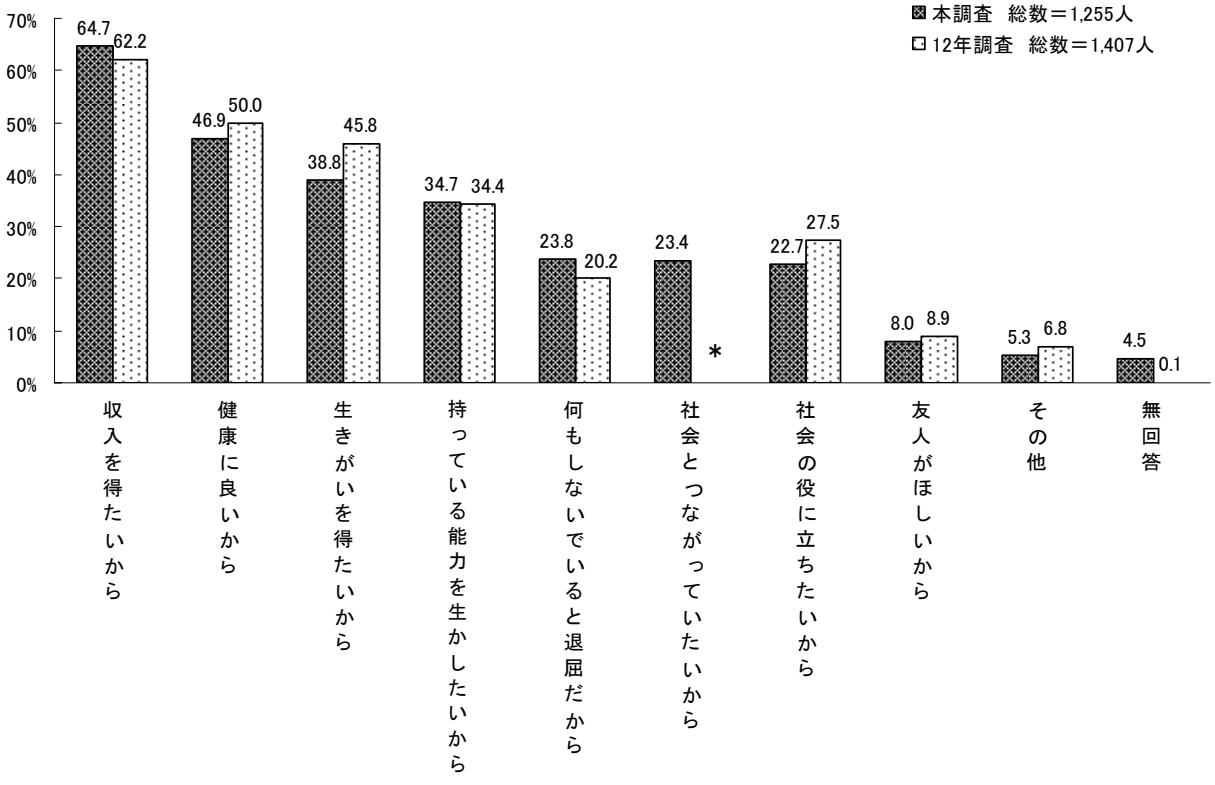
(2) 就業理由

就業の理由は「収入を得たいから」が 65%でトップ

収入のある仕事をしている高齢者に、仕事をしている理由を尋ねたところ、「収入を得たいから」が 64.7%で最も多く、次いで「健康に良いから」46.9%、「生きがいを得たいから」38.8%と続いている。(図 9-2)

12 年調査と比べると、「収入を得たいから」が 2.5 ポイント（12 年調査 62.2%→本調査 64.7%）増加する一方、「生きがいを得たいから」が 7.0 ポイント（12 年調査 45.8%→本調査 38.8%)、「社会の役に立ちたいから」が 4.8 ポイント(12 年調査 27.5%→本調査 22.7%)それぞれ減少している。

図 9-2　就業理由－12 年調査との比較



（注）＊は前回調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

年齢階級別でみると、「65～69 歳」では、「収入を得たいから」が 71.3％と 7 割を超えている。一方「85 歳以上」では、「健康に良いから」と「生きがいを得たいから」がともに 51.4％で、最も多くなっている。(表 9-3)

仕事の内容別でみると、「常勤の被雇用者」「臨時・パート」では、「収入を得たいから」が 7 割を超えている。一方「シルバー人材センターの会員」では、「健康に良いから」が 77.8％で 8 割弱にのぼっている。

年収別でみると、年収が上がるとともに「持っている能力を生かしたいから」の割合が増加傾向にあることがわかる。

表 9-3　収入のある仕事をしている理由－性、年齢階級、仕事の内容、年収別

		総数	収入を得たいから	健康に良いから	生きがいを得たいから	持っている能力を生かしたいから	何もしないでいると退屈だから	社会とつながっていたいから	社会の役に立ちたいから	友人がほしいから	その他	無回答
総数		100.0 (1,255)	64.7	46.9	38.8	34.7	23.8	23.4	22.7	8.0	5.3	4.5
性別	男	100.0 (761)	67.1	46.9	39.3	37.3	23.4	25.2	24.0	9.2	4.3	4.7
	女	100.0 (494)	60.9	46.8	38.1	30.8	24.5	20.6	20.6	6.1	6.7	4.0
年齢階級別	65～69歳	100.0 (579)	71.3	48.0	37.3	34.0	26.4	23.1	20.2	9.3	3.8	4.5
	70～74歳	100.0 (386)	63.5	48.2	43.3	37.0	22.5	24.6	24.4	7.5	5.2	3.6
	75～79歳	100.0 (172)	54.1	45.3	36.6	37.8	19.8	26.2	30.8	5.2	7.6	3.5
	80～84歳	100.0 (83)	54.2	33.7	27.7	25.3	19.3	13.3	13.3	2.4	8.4	9.6
	85歳以上	100.0 (35)	45.7	51.4	51.4	28.6	25.7	25.7	28.6	17.1	11.4	5.7
仕事の内容別	自営業(家族従業者含む)	100.0 (681)	66.7	39.9	39.5	35.7	21.6	21.3	19.4	6.8	6.9	3.5
	常勤の被雇用者	100.0 (121)	74.4	60.3	42.1	39.7	25.6	28.1	28.1	10.7	5.8	3.3
	会社の嘱託や顧問などで常勤でない被雇用	100.0 (97)	47.4	42.3	35.1	47.4	18.6	26.8	29.9	6.2	8.2	3.1
	臨時・パート	100.0 (214)	71.5	58.9	39.7	25.7	28.5	25.7	26.2	8.4	1.9	0.9
	シルバー人材センターの会員	100.0 (63)	54.0	77.8	36.5	27.0	38.1	36.5	31.7	19.0	－	－
年収別	50万円未満	100.0 (28)	53.6	50.0	21.4	10.7	14.3	21.4	7.1	－	7.1	7.1
	50万円以上 100万円未満	100.0 (92)	67.4	55.4	40.2	23.9	28.3	18.5	23.9	7.6	5.4	3.3
	100万円以上 150万円未満	100.0 (105)	74.3	49.5	37.1	31.4	26.7	24.8	16.2	8.6	1.9	1.9
	150万円以上 200万円未満	100.0 (111)	65.8	46.8	37.8	31.5	27.0	20.7	27.9	10.8	0.9	7.2
	200万円以上 250万円未満	100.0 (121)	62.8	53.7	36.4	32.2	21.5	19.8	18.2	5.0	9.1	4.1
	250万円以上 300万円未満	100.0 (147)	70.1	51.7	40.8	36.1	33.3	21.1	21.8	7.5	2.7	2.0
	300万円以上 500万円未満	100.0 (259)	60.6	46.7	41.7	38.6	23.6	25.9	22.8	9.7	2.3	4.6
	500万円以上 700万円未満	100.0 (110)	69.1	42.7	34.5	42.7	20.9	28.2	20.9	8.2	9.1	2.7
	700万円以上 1，000万円未満	100.0 (88)	68.2	38.6	37.5	37.5	10.2	29.5	27.3	5.7	3.4	9.1
	1，000万円以上	100.0 (121)	61.2	36.4	43.8	43.8	20.7	24.8	33.9	9.1	12.4	3.3

(3) 就業者の今後の就業意向

今後も働きたい高齢者が 9 割を超える。

収入のある仕事をしている高齢者に、今後、仕事をどうしたいかと尋ねたところ、「今後も働きたい」が 94.3%と 9 割を超えた。そのうち、「この状態のまま、継続して働きたい」は 87.2%で、就業している高齢者の多くが現在の仕事を継続したいと考えていることがわかる。(表 9-4)

年齢階級別でみると、年齢があがるごとに「今後も働きたい」割合が高くなっている。

収入のある仕事の内容別でみると、自営業が「この状態のまま、継続して働きたい」が 91.6%と高い割合になっている。シルバー人材センターの会員は、「もっと技術や経験が生かせる仕事がしたい」が 6.3%で、他の就業形態に比べて高くなっている。

表 9-4 就業者の今後の就業意向
―性、年齢階級、収入のある仕事の内容別、12 年調査との比較

		総数	今後も働きたい	この状態のまま、継続して働きたい	もっと収入の多い仕事をしたい	もっと技術や経験が生かせる仕事がしたい	通勤・労働時間を短くする等、もっと楽な仕事がしたい	自分で事業を経営したい	シルバー人材センターで働きたい	報酬が少なくても、非営利団体等で社会に役立つ働き方がしたい	働くことをやめたい	無回答
総数		100.0 (1,255)	94.3	87.2	2.9	0.8	1.4	0.3	0.6	1.0	4.5	1.3
性別	男	100.0 (761)	93.4	86.7	2.6	1.2	1.3	0.4	0.4	0.8	5.1	1.4
	女	100.0 (494)	95.5	87.9	3.4	0.2	1.4	0.2	1.0	1.4	3.4	1.0
年齢階級別	65～74歳	100.0 (965)	93.6	85.2	3.6	0.9	1.5	0.4	0.8	1.1	5.0	1.5
	75～84歳	100.0 (255)	96.1	92.9	0.8	0.4	1.2	－	－	0.8	3.1	0.8
	85歳以上	100.0 (35)	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－
仕事の内容別	自営業(家族従業者を含む)	100.0 (681)	94.7	91.6	1.5	0.1	0.9	0.1	－	0.4	3.8	1.5
	常勤の被雇用者	100.0 (121)	89.3	79.3	－	1.7	5.8	－	1.7	0.8	9.9	0.8
	会社の嘱託や顧問などで常勤でない被雇用者	100.0 (97)	87.6	79.4	3.1	1.0	－	－	1.0	3.1	11.3	1.0
	臨時・パート	100.0 (214)	95.8	81.3	7.0	0.9	1.9	0.5	2.3	1.9	3.3	0.9
	シルバー人材センターの会員	100.0 (63)	98.4	84.1	4.8	6.3	－	1.6	－	1.6	－	1.6
12年調査		100.0 (1,407)	94.9	88.6	1.6	0.9	1.5	0.4	0.9	0.9	4.8	0.3

(4) 非就業の理由

収入のある仕事をしていない理由は「働く必要がないから」がトップで、3割強。

収入のある仕事をしていない理由を尋ねたところ、「働く必要がないから」が32.2%と最も多く、次いで「健康・身体上の理由」23.8%、「求人上の理由」18.0%となっている。(表9-5)

性別でみると、男性では「求人上の理由」が23.3%だが、女性では14.7%と、男性が女性より8.6ポイント高い。

最長職業別でみると、臨時・パートでは、「求人上の理由」のうち「年齢制限で働くところが見つからないから」が26.3%と、高い割合となっている。また家事専業(専業主婦)では、「働く必要がないから」が41.6%、「特に理由はない」も20.5%にのぼっており、収入のある仕事に就こうという意向が弱いことがうかがえる。

表9-5 収入のある仕事をしていない理由(複数回答)ー性、年齢階級、最長職業別

		総数	求人上の理由	希望や条件に合う働くところがないから	年齢制限で働くところが見つからないから	健康・身体上の理由	体力的に働くのはきついから	健康がすぐれないから	家事、育児、介護に従事していて、働く時間がないから	仕事以外に時間を使いたいから	働く必要がないから	その他	特に理由はない	無回答
総数		100.0 (3,322)	18.0	2.7	15.3	23.8	10.0	13.8	3.0	3.5	32.2	1.7	15.0	2.9
性別	男	100.0 (1,288)	23.3	4.7	18.6	25.9	10.2	15.6	1.0	4.8	27.6	1.7	13.4	2.3
	女	100.0 (2,034)	14.7	1.5	13.2	22.5	9.8	12.7	4.2	2.7	35.2	1.6	16.0	3.2
年齢階級別	65～74歳	100.0 (1,647)	24.2	4.7	19.5	22.0	8.5	13.5	4.0	5.8	27.3	1.9	12.3	2.4
	75～84歳	100.0 (1,315)	13.0	0.8	12.2	26.6	12.0	14.6	2.1	1.5	35.7	1.3	16.6	3.2
	85歳以上	100.0 (360)	8.1	0.6	7.5	21.4	9.2	12.2	1.1	0.6	41.9	1.7	21.7	3.6
最長職業別	自営業(家族従業者含む)	100.0 (650)	15.8	2.9	12.9	31.4	11.4	20.0	2.6	1.7	28.0	3.7	13.4	3.4
	常勤の被雇用者	100.0 (1,481)	22.7	4.2	18.5	22.5	9.5	13.0	1.7	5.2	30.8	1.6	13.2	2.4
	会社の嘱託や顧問などで常勤でない被雇用者	100.0 (26)	11.5	－	11.5	38.5	7.7	30.8	7.7	－	23.1	－	15.4	3.8
	臨時・パート	100.0 (270)	27.4	1.1	26.3	30.0	12.2	17.8	3.7	1.9	23.0	0.4	11.5	2.2
	内職	100.0 (36)	11.1	－	11.1	36.1	13.9	22.2	5.6	2.8	19.4	－	19.4	5.6
	家事専業(専業主婦)	100.0 (806)	8.9	0.7	8.2	17.4	8.8	8.6	5.2	2.9	41.6	0.4	20.5	3.2

(5) 非就業者の今後の就業意向

現在仕事をしていないが、今後収入のある仕事をしたいと思っている高齢者は 14%

現在収入のある仕事をしていない高齢者に、今後収入の得られる仕事に就きたいかを尋ねたところ、「仕事をしたいと思わない」が 67.4%で最も多く、次いで「健康上の理由でできることができない」16.4%、「仕事をしたいと思う」14.1%となっている。(表 9-6)

性別でみると、「仕事をしたいと思う」は男性 19.5%、女性 10.7%で男性が女性より 8.8 ポイント高い。

年齢階級別でみると、前期高齢者（65～74 歳）では、「仕事をしたいと思う」が 21.4%で 2 割を超えている。

最長職業別でみると、「仕事をしたいと思う」と答えた割合は、常勤の被雇用者が 18.3%で最も高く、家事専業（専業主婦）が 6.3%で最も低い。

表 9-6 非就業者の今後の就業意向－性、年齢階級、最長職業別

		総数	仕事をしたいと思う	仕事をしたいと思わない	健康上の理由等でできることができない	無回答
総数		100.0 (3,322)	14.1	67.4	16.4	2.0
性別	男	100.0 (1,288)	19.5	61.2	17.5	1.9
	女	100.0 (2,034)	10.7	71.4	15.8	2.1
年齢階級別	65～74歳	100.0 (1,647)	21.4	62.1	15.0	1.5
	75～84歳	100.0 (1,315)	8.3	71.4	18.4	1.9
	85歳以上	100.0 (360)	2.2	77.2	15.8	4.7
最長職業別	自営業(家族従業者含む)	100.0 (650)	14.5	60.3	22.2	3.1
	常勤の被雇用者	100.0 (1,481)	18.3	65.4	14.2	2.2
	会社の嘱託や顧問などで常勤でない被雇用者	100.0 (26)	11.5	57.7	30.8	－
	臨時・パート	100.0 (270)	17.0	62.6	20.4	－
	家事専業(専業主婦)	100.0 (806)	6.3	78.4	13.6	1.6

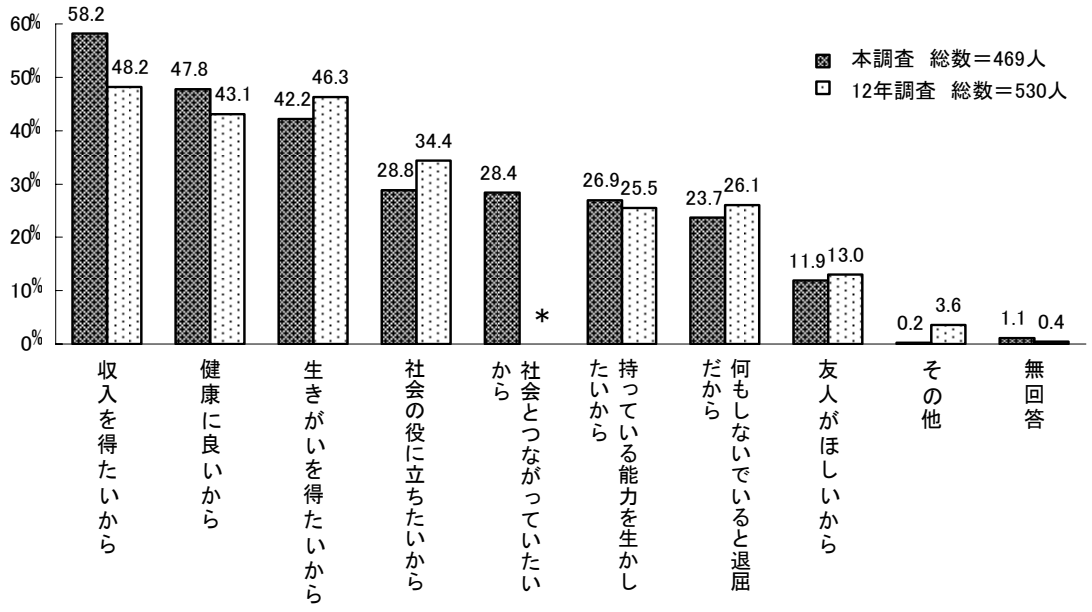
(6) 非就業者の就業希望の理由

現在仕事をしていないが、今後収入のある仕事をしたい理由は、「収入を得たいから」が6割弱。

非就業者のうち、今後「仕事をしたいと思う」と回答した高齢者に、その理由を尋ねたところ、「収入を得たいから」が58.2%と最も多く、次いで「健康に良いから」47.8%、「生きがいを得たいから」42.2%と続いている。(図9-3)

12年調査と比べると、「収入を得たいから」が10ポイント(12年調査48.2%→本調査58.2%)増加しており、経済上の理由により仕事をしたいと思っている高齢者が、増えていることがわかる。

図9-3 非就業者の就業希望の理由、12年調査との比較



(注) ＊は前回調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

性別でみると、「収入を得たいから」は女性が 61.5%、男性が 55.4%で、女性が男性より 6.1 ポイント高くなっている。一方、「持っている能力を生かしたいから」は男性が 32.3%、女性が 20.6%で、男性が女性より 11.7 ポイント高くなっている。(表 9-7)

年齢階級別でみると、前期高齢者（65～74 歳）では、「収入を得たいから」が 63.1%で最も多い。一方後期高齢者（75 歳以上）では、「生きがいを得たいから」が 48.7%で最も多い。

最長職業別でみると、どの職業でも「収入を得たいから」が最も多くなっているが、家事専業（専業主婦）では「生きがいを得たいから」も、並んで最も多い回答となっている。

年収別でみると、250 万円未満までの階層では、「収入を得たいから」が最も多くなっており、250 万円以上の階層では、「健康に良いから」が最も多くなっている。

表 9-7　非就業者の就業希望の理由(複数回答)－性、年齢階級、最長職業、年収別

		総数	収入を得たいから	健康に良いから	生きがいを得たいから	社会の役に立ちたいから	社会とつながっていたいから	持っている能力を生かしたいから	何もしないでいると退屈だから	友人がほしいから	その他	無回答
総数		100.0 (469)	58.2	47.8	42.2	28.8	28.4	26.9	23.7	11.9	0.2	1.1
性別	男	100.0 (251)	55.4	49.4	40.2	31.5	29.5	32.3	27.9	12.4	－	1.6
	女	100.0 (218)	61.5	45.9	44.5	25.7	27.1	20.6	18.8	11.5	0.5	0.5
年齢階級別	65～74歳	100.0 (352)	63.1	51.1	40.1	28.4	31.0	29.5	25.9	12.8	－	0.9
	75歳以上	100.0 (117)	43.6	37.6	48.7	29.9	20.5	18.8	17.1	9.4	0.9	1.7
最長職業別	自営業(家族従業者含む)	100.0 (94)	68.1	40.4	44.7	24.5	30.9	36.2	27.7	14.9	－	1.1
	常勤の被雇用者	100.0 (271)	53.1	49.4	39.9	31.4	29.2	26.6	23.2	10.7	－	1.5
	臨時・パート	100.0 (46)	65.2	50.0	34.8	13.0	15.2	13.0	30.4	13.0	－	－
	家事専業(専業主婦)	100.0 (51)	58.8	51.0	58.8	37.3	35.3	25.5	15.7	13.7	2.0	－
年収別	50万円未満	100.0 (56)	75.0	41.1	37.5	21.4	17.9	17.9	25.0	8.9	－	－
	50万円以上 100万円未満	100.0 (97)	66.0	46.4	44.3	26.8	33.0	29.9	30.9	17.5	－	－
	100万円以上 150万円未満	100.0 (66)	68.2	47.0	40.9	24.2	27.3	19.7	21.2	18.2	－	－
	150万円以上 200万円未満	100.0 (60)	55.0	53.3	46.7	20.0	20.0	26.7	20.0	8.3	－	3.3
	200万円以上 250万円未満	100.0 (56)	60.7	41.1	39.3	23.2	17.9	28.6	17.9	7.1	－	－
	250万円以上 300万円未満	100.0 (51)	43.1	52.9	49.0	43.1	37.3	25.5	25.5	13.7	2.0	－
	300万円以上	100.0 (69)	42.0	47.8	39.1	43.5	42.0	39.1	21.7	7.2	－	4.3

2　経済

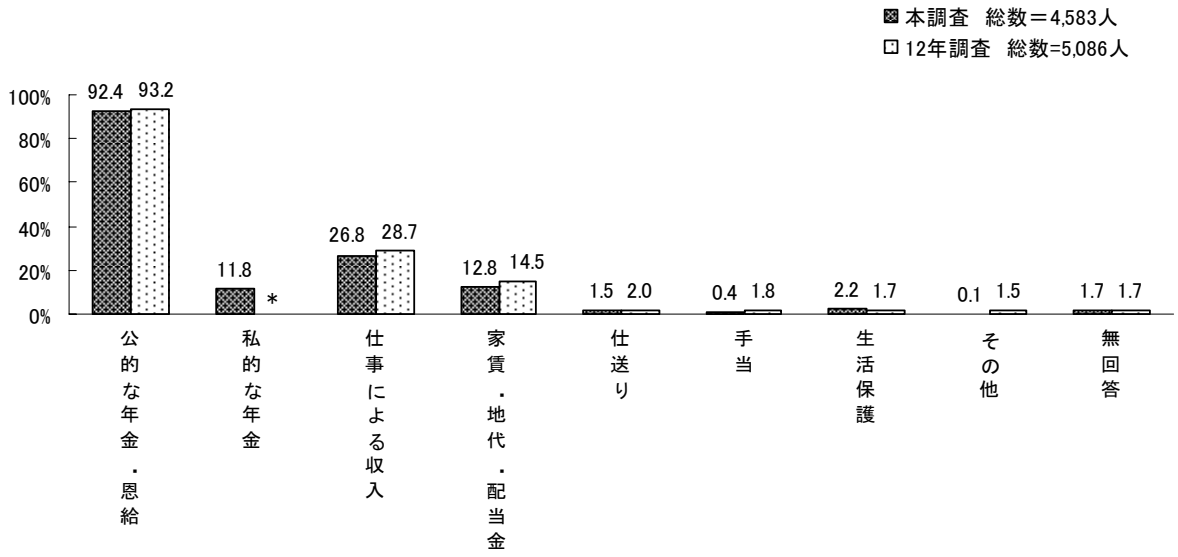
(1)　収入源

公的な年金・恩給を受給している高齢者は 9 割を超える。
主な収入源が公的な年金・恩給である高齢者は 7 割強。

平成 16 年中の収入源を複数回答で尋ねたところ、「公的な年金・恩給」が 92.4％と 9 割を超え、次いで「仕事による収入」26.8％、「家賃・地代・配当金」12.8％となっている。（図 9-4）

12 年調査と比べると、「生活保護」が 0.5 ポイント（12 年調査 1.7％→本調査 2.2％）増加しているが、他はすべて割合が若干減少している。「仕事による収入」も、1.9 ポイント（12 年調査 28.7％→本調査 26.8％）減少した。

図 9-4　収入源（複数回答）－12 年調査との比較



（注 1）収入なしは、「無回答」に含まれる。
（注 2）＊は前回調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの

性・年齢階級別でみると、「仕事による収入」は、男性の 65～69 歳では 54.3％と 5 割を超え、女性の 65～69 歳でも 35.3％にのぼっているが、男女とも年齢階級が上がるとともに割合は減少している。また、「私的な年金」は、男性の 65～69 歳では 20.3％、女性の 65～69 歳では 10.4％にのぼっており、公的な年金だけではなく、私的な年金にも老後の備えを託す高齢者が増えていることがうかがえる。（表 9-8）

世帯構成（世代別）でみると、単身世帯（ひとりぐらし）では、「生活保護」を受給している者が 9.2％いることがわかる。

最長職業別でみると、「公的な年金」を受給している者は、自営業では 87.9％、臨時・パートでは 87.5％であり、常勤の被雇用者、家事専業（専業主婦）が 95％前後であるのに比べて、低い割合となっている。また、自営業では「仕事による収入」が 48.1％にのぼっており、自営業をしていた約半数の高齢者が現在でも仕事を続けていることがわかる。

表 9-8　収入源（複数回答）

－性・年齢階級、世帯構成（世代別）、最長職業、収入のある仕事の有無別

		総数	公的な年金・恩給	私的な年金	仕事による収入	家賃・地代・配当金	仕送り	手当	生活保護	その他	無回答
総数		100.0 (4,583)	92.4	11.8	26.8	12.8	1.5	0.4	2.2	0.1	1.7
性・年齢階級別	男	100.0 (2,052)	92.1	16.8	36.9	16.0	0.8	0.3	2.4	－	1.2
	65～69歳	100.0 (645)	87.3	20.3	54.3	11.8	0.5	0.3	2.9	－	1.6
	70～74歳	100.0 (610)	92.3	16.6	37.5	16.2	－	0.5	3.1	－	1.0
	75～79歳	100.0 (419)	95.5	14.8	26.3	16.5	1.4	0.2	2.1	－	1.2
	80～84歳	100.0 (237)	95.4	15.6	20.3	19.4	1.3	－	0.4	－	0.8
	85歳以上	100.0 (141)	97.9	9.2	14.2	27.0	3.5	－	0.7	－	0.7
	女	100.0 (2,531)	92.6	7.7	18.6	10.2	2.0	0.6	2.1	0.2	2.2
	65～69歳	100.0 (634)	89.0	10.4	35.3	7.4	1.1	1.1	1.4	0.5	2.4
	70～74歳	100.0 (725)	92.3	7.6	20.0	10.5	1.1	0.4	3.2	0.1	1.9
	75～79歳	100.0 (536)	94.6	8.6	10.6	11.4	2.1	－	1.7	0.2	2.4
	80～84歳	100.0 (380)	95.0	5.5	8.4	11.1	2.9	0.5	2.6	－	2.1
	85歳以上	100.0 (256)	94.5	3.1	4.7	12.5	5.5	0.8	1.2	－	2.3
世帯構成（世代別）	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (863)	88.2	10.7	21.8	11.8	3.1	0.5	9.2	0.3	0.8
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (1,700)	93.9	14.6	29.6	13.2	0.6	0.3	0.9	0.1	1.6
	二世代世帯	100.0 (1,294)	92.3	10.1	29.0	13.3	1.9	0.5	0.5	－	1.9
	三世代世帯	100.0 (619)	94.0	9.0	21.8	12.4	0.6	0.5	0.2	0.2	2.7
最長職業別	自営業（家族従業者含む）	100.0 (1,311)	87.9	8.4	48.1	22.1	2.1	0.4	1.8	－	2.1
	常勤の被雇用者	100.0 (1,920)	95.3	17.9	22.9	10.0	0.5	0.4	2.3	0.2	0.8
	臨時・パート	100.0 (345)	87.5	6.4	22.6	4.6	2.3	0.3	6.7	0.3	2.6
	家事専業（専業主婦）	100.0 (846)	94.7	6.0	4.5	9.5	2.5	0.7	0.8	0.1	2.8
仕事の有無別	仕事をしている	100.0 (1,255)	88.4	12.0	92.7	18.2	0.7	0.2	0.1	－	0.2
	仕事をしていない	100.0 (3,322)	93.9	11.6	1.9	10.8	1.8	0.5	3.1	0.2	2.3

また、収入源のうち主な収入源を 1 つ尋ねたところ、「公的な年金・恩給」が 71.6%で最も多く、次いで「仕事による収入」13.2%、「家賃・地代・配当金」6.8%となっている。（表 9-9）

性・年齢階級別でみると、男女を問わずどの年齢階級でも「公的な年金・恩給」が最も多い。「仕事による収入」は、男性の 65～69 歳で 31.5%、女性の 65～69 歳で 18.0%であるが、年齢階級が上がるとともに割合は減少している。

収入のある仕事の有無別でみると、仕事をしている高齢者でも、主な収入源が「仕事による収入」である割合は 46.0%にとどまり、「公的な年金・恩給」と答えた者が 37.9%にのぼっている。

表 9-9　主な収入源－性・年齢階級、収入のある仕事の有無別

			総数	公的な年金・恩給	私的な年金	仕事による収入	家賃・地代・配当金	仕送り	手当	生活保護	その他	無回答
総数			100.0 (4,583)	71.6	1.7	13.2	6.8	0.5	0.1	1.9	0.1	4.0
性・年齢階級別	男		100.0 (2,052)	65.3	2.0	19.3	6.9	0.2	－	2.1	0.1	4.0
		65～69歳	100.0 (645)	53.5	2.8	31.5	3.7	0.3	－	2.6	－	5.6
		70～74歳	100.0 (610)	65.4	1.8	18.5	7.2	－	0.2	2.8	－	4.1
		75～79歳	100.0 (419)	73.7	1.4	11.9	8.1	0.5	－	1.9	0.5	1.9
		80～84歳	100.0 (237)	76.4	1.3	8.4	9.7	－	－	0.4	－	3.8
		85歳以上	100.0 (141)	75.2	2.1	7.8	11.3	0.7	－	－	－	2.8
	女		100.0 (2,531)	76.8	1.5	8.3	6.7	0.8	0.1	1.8	0.1	4.0
		65～69歳	100.0 (634)	67.7	2.1	18.0	4.7	0.2	0.2	1.1	0.2	6.0
		70～74歳	100.0 (725)	77.9	1.4	7.7	5.5	0.7	－	2.9	0.1	3.7
		75～79歳	100.0 (536)	80.6	1.7	4.3	8.2	0.7	－	1.5	－	3.0
		80～84歳	100.0 (380)	80.5	1.6	3.2	8.9	1.1	－	1.8	－	2.9
		85歳以上	100.0 (256)	82.4	0.4	1.6	8.2	2.3	0.4	0.8	－	3.9
仕事の有無別	仕事をしている		100.0 (1,255)	37.9	0.8	46.0	9.2	0.2	－	－	－	6.0
	仕事をしていない		100.0 (3,322)	84.4	2.0	0.9	5.9	0.7	0.1	2.6	0.1	3.3

(2) 公的年金の種類

受給している公的年金の種類は、国民年金が 57%、厚生年金が 56%

収入源で公的年金・恩給と答えた高齢者にその種類を複数回答で尋ねたところ、「国民年金」が 57.2%で最も多く、次いで「厚生年金」56.1%、「各種共済年金」10.1%と続いている。(表 9-10)

性・年齢階級別でみると、男性では「厚生年金」が 71.8%で最も多く、次いで「国民年金」38.6%となっている。一方女性では、「国民年金」が 72.3%で最も多く、次いで「厚生年金」43.4%となっている。

最長職業別でみると、自営業、臨時・パート、家事専業（専業主婦）では、「国民年金」が約 8 割に達している。一方常勤の被雇用者では、「厚生年金」が約 8 割に達している。

表 9-10　公的年金の種類（複数回答）ー性・年齢階級、最長職業別、12 年調査との比較

			総数	国民年金	厚生年金	各種共済年金	老齢福祉年金	恩給・遺族扶助料	その他	無回答
総数			100.0 (4,233)	57.2	56.1	10.1	2.0	4.1	0.3	0.4
性・年齢階級別	男		100.0 (1,890)	38.6	71.8	14.7	1.4	1.7	0.2	0.4
		65～69歳	100.0 (563)	37.7	75.8	11.2	0.9	0.2	－	0.2
		70～74歳	100.0 (563)	43.5	69.6	14.7	1.4	－	0.2	0.2
		75～79歳	100.0 (400)	34.8	72.8	17.5	1.8	－	0.8	0.8
		80～84歳	100.0 (226)	35.0	69.5	19.5	1.3	4.9	－	0.9
		85歳以上	100.0 (138)	39.1	65.2	13.0	2.9	15.2	－	0.7
	女		100.0 (2,343)	72.3	43.4	6.4	2.5	5.9	0.3	0.3
		65～69歳	100.0 (564)	72.2	47.3	5.7	1.4	0.9	0.2	0.5
		70～74歳	100.0 (669)	73.5	42.9	6.0	1.6	2.2	0.1	0.4
		75～79歳	100.0 (507)	73.6	42.2	5.5	3.6	5.5	0.4	－
		80～84歳	100.0 (361)	72.3	42.9	8.3	3.0	12.7	0.6	0.3
		85歳以上	100.0 (242)	66.5	39.3	8.7	4.5	18.6	0.4	－
最長職業別	自営業(家族従業者含む)		100.0 (1,153)	79.5	39.6	3.5	1.6	4.2	0.3	0.4
	常勤の被雇用者		100.0 (1,830)	29.3	78.8	18.4	1.7	2.3	0.2	0.3
	臨時・パート		100.0 (302)	78.8	40.7	1.0	2.3	4.3	－	1.0
	家事専業(専業主婦)		100.0 (801)	79.3	35.1	5.6	3.2	7.2	0.2	－
12年調査			100.0 (4,770)	54.4	52.2	10.6	3.2	8.6	2.3	0.2

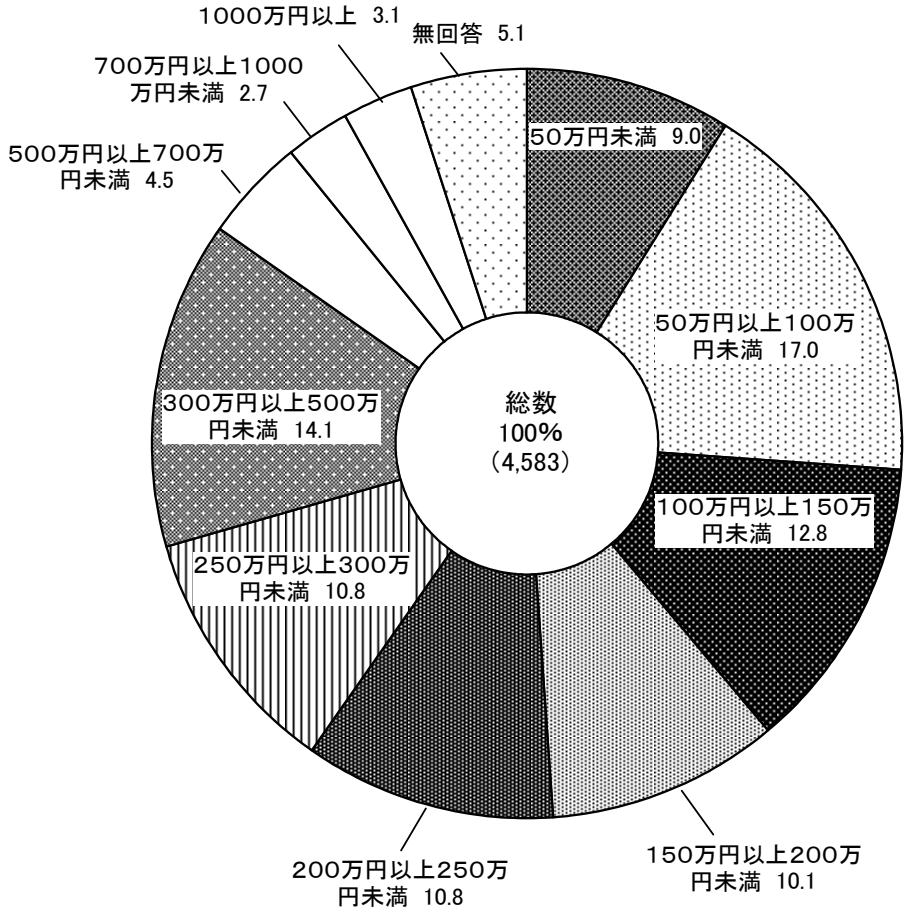
(3) 年収

高齢者本人の年収は 200 万円未満が約半数である。
男性は年収 200 万円以上が 7 割を超えるのに対して、女性は年収 200 万円未満が 7 割近くにのぼる。

高齢者本人の年収(税込み)について尋ねたところ、「50 万円以上 100 万円未満」が 17.0%と最も多く、次いで「300 万円以上 500 万円未満」14.1%、「100 万円以上 150 万円未満」12.8%と続いている。(図 9-5)

200 万円未満までを合計すると 48.9%であり、約半数の高齢者は年収 200 万円未満であることがわかる。

図 9-5　年収



過去の調査と比べると、「50 万円未満」は、調査を開始した昭和 55 年から一貫して減少している。一方、200 万円以上 300 万円未満は一貫して増加している。(表 9-11)

また、「300 万円以上 500 万円未満」「500 万円以上」の割合は、昭和 55 年の調査開始以来 12 年調査まで増加していたが、初めて減少に転じた。

表 9-11　年収－過去調査（昭和 55 年～）との比較

（単位：%）

	総数	50万円未満	100万円未満	150万円未満	200万円未満	250万円未満	300万円未満	500万円未満	500万円以上	無回答
本調査（2005年）	100.0 (4,583)	9.0	17.0	12.8	10.1	10.8	10.8	14.1	10.2	5.1
				22.9		21.6				
平成12年調査（2000年）	100.0 (5,086)	9.4	15.9	21.5		18.8		17.8	14.0	2.7
平成7年調査（1995年）	100.0 (8,686)	15.7	15.9	21.1		17.1		14.1	12.3	3.8
平成2年調査（1990年）	100.0 (8,715)	23.2	15.5	21.3		14.0		10.9	12.0	3.2
昭和60年調査（1985年）	100.0 (4,484)	27.4	13.6	23.7		13.2		10.6	8.4	3.1
昭和55年調査（1980年）	100.0 (4,502)	34.6	19.0	20.3		9.2		7.2	6.5	3.1

（注）本調査より、100 万円以上 300 万円未満の階級を 100 万円毎ではなく、50 万円毎に分けて尋ねている。

性別でみると、男性では「300 万円以上 500 万円未満」が 24.4%で最も多く、次いで「250 万円以上 300 万円未満」16.6%、「200 万円以上 250 万円未満」12.4%となっている。一方女性では、「50 万円以上 100 万円未満」が 26.9%で最も多く、次いで「100 万円以上 150 万円未満」17.2%、「50 万円未満」13.9%となっている。(表 9-12)

男性は年収 200 万円以上が 71.3%と 7 割を超えるのに対して、女性は年収 200 万円未満が 69.5%と 7 割近くにのぼっている。

表 9-12　年収－性・年齢階級、世帯構成（世代別）

		総数	50万円未満	150万円以上未満	150万円以上未満	210万円以上未満	250万円以上未満	320万円以上未満	530万円以上未満	750万円以上未満	1000万円以上未満	1000万円以上	無回答
総数		100.0 (4,583)	9.0	17.0	12.8	10.1	10.8	10.8	14.1	4.5	2.7	3.1	5.1
性・年齢階級別	男	100.0 (2,052)	2.9	4.8	7.4	8.4	12.4	16.6	24.4	7.4	4.9	5.6	5.3
										71.2			
	65～69歳	100.0 (645)	2.2	3.6	6.8	9.0	12.9	15.5	23.4	8.4	6.0	6.4	5.9
	70～74歳	100.0 (610)	2.3	5.9	8.4	9.7	12.5	17.0	22.5	8.2	4.3	4.6	4.8
	75～79歳	100.0 (419)	3.3	4.1	7.9	6.9	11.0	16.7	28.2	6.2	4.8	5.5	5.5
	80～84歳	100.0 (237)	3.4	5.9	5.9	7.2	13.1	15.2	26.6	5.9	5.5	6.8	4.6
	85歳以上	100.0 (141)	7.1	6.4	7.1	6.4	12.8	22.0	22.0	5.0	1.4	4.3	5.7
	女	100.0 (2,531)	13.9	26.9	17.2	11.5	9.6	6.2	5.8	2.1	0.9	1.1	4.9
					69.5								
	65～69歳	100.0 (634)	11.8	28.9	16.1	12.9	9.3	7.1	6.5	1.7	0.6	1.3	3.8
	70～74歳	100.0 (725)	11.7	30.6	19.2	10.8	7.6	5.1	6.6	2.1	1.0	0.7	4.7
	75～79歳	100.0 (536)	15.3	27.4	14.4	10.4	11.4	6.2	4.9	2.4	0.7	1.1	5.8
	80～84歳	100.0 (380)	15.5	21.6	19.2	12.1	10.5	6.1	5.8	1.3	1.3	1.3	5.3
	85歳以上	100.0 (256)	19.5	18.8	17.6	10.9	10.5	7.0	3.5	3.9	0.8	1.6	5.9
世帯構成（世代別）	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (863)	5.0	14.5	20.3	16.7	12.7	9.0	9.8	3.2	1.2	2.1	5.4
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (1,700)	9.4	18.2	8.4	7.1	9.6	11.8	17.4	5.4	3.3	4.3	5.1
	二世代世帯	100.0 (1,294)	9.7	17.7	12.9	9.3	10.6	10.7	13.5	4.3	3.0	2.5	5.8
	三世代世帯	100.0 (619)	11.8	16.5	14.2	10.3	11.5	10.2	12.4	4.7	2.7	2.6	3.1

主な収入源別でみると、公的な年金・恩給が主な収入源である者は、年収「50 万円以上 100 万円未満」が 21.4%で最も多くなっている。また、仕事による収入、家賃・地代・配当金が主な収入源である者は、「300 万円以上 500 万円未満」が 20.5%、21.3%とそれぞれ 2 割を超え、最も多くなっている。(表 9-13)

公的年金の種類別でみると、国民年金受給者は、「50 万円以上 100 万円未満」が 27.2%で最も多い。厚生年金、各種共済年金受給者は、「300 万円以上 500 万円未満」がそれぞれ 18.6%、29.6%で最も多くなっている。

収入のある仕事の内容別でみると、自営業と常勤の被雇用者は、年収 250 万円以上の割合が、それぞれ 63.4%、74.4%に達している。一方、臨時・パートでは、年収 250 万円未満の割合が、65.9%を占めている。

表 9-13　年収－主な収入源、公的年金の種類（複数回答）、収入のある仕事の有無
収入のある仕事の内容別

		総数	50万円未満	100万円以上150万円未満	150万円以上100万円未満	200万円以上150万円未満	250万円以上200万円未満	300万円以上250万円未満	500万円以上300万円未満	700万円以上500万円未満	1,000万円以上700万円未満	1,000万円以上	無回答
総数		100.0 (4,583)	9.0	17.0	12.8	10.1	10.8	10.8	14.1	4.5	2.7	3.1	5.1
主な収入源	公的な年金・恩給	100.0 (3,283)	9.3	21.4	14.3	11.4	12.2	11.5	12.9	2.2	0.5	0.2	4.3
	私的な年金	100.0 (80)	7.5	6.3	11.3	13.8	15.0	13.8	12.5	12.5	5.0	1.3	1.3
	仕事による収入	100.0 (606)	2.1	4.3	7.4	8.4	7.3	10.4	20.5	9.4	9.1	14.9	6.3
	家賃・地代・配当金	100.0 (310)	1.9	1.9	3.2	2.6	7.7	10.3	21.3	19.4	12.6	12.6	6.5
	生活保護	100.0 (88)	8.0	30.7	43.2	12.5	3.4	－	－	－	－	－	2.3
公的年金の種類	国民年金	100.0 (2,423)	11.3	27.2	14.8	10.1	8.5	6.5	9.1	3.3	2.2	2.3	4.7
	厚生年金	100.0 (2,375)	1.7	7.2	13.4	13.0	15.3	14.9	18.6	5.7	2.5	3.0	4.6
	各種共済年金	100.0 (429)	0.7	1.6	4.4	8.2	13.8	23.3	29.6	5.1	3.3	6.3	3.7
	老齢福祉年金	100.0 (86)	11.6	10.5	12.8	19.8	15.1	8.1	8.1	4.7	3.5	3.5	2.3
	恩給・遺族扶助料	100.0 (172)	1.2	8.1	16.3	19.8	18.6	11.6	12.2	2.9	0.6	2.9	5.8
仕事の有無別	仕事をしている	100.0 (1,255)	2.2	7.3	8.4	8.8	9.6	11.7	20.6	8.8	7.0	9.6	5.8
	仕事をしていない	100.0 (3,322)	11.5	20.7	14.5	10.6	11.2	10.5	11.6	2.9	1.0	0.6	4.8
収入のある仕事の内容別	自営業（家族従業者含む）	100.0 (681)	1.2	6.5	7.6	5.6	8.4	10.4	20.0	11.0	9.7	12.3	7.3
										63.4			
	常勤の被雇用者	100.0 (121)	1.7	0.8	4.1	7.4	7.4	20.7	22.3	11.6	5.0	14.9	4.1
										74.4			
	臨時・パート	100.0 (214)	5.1	14.5	15.9	15.0	15.4	13.1	14.0	2.3	1.9	－	2.8
					65.9								
	シルバー人材センターの会員	100.0 (63)	4.8	7.9	7.9	22.2	14.3	15.9	20.6	4.8	－	－	1.6

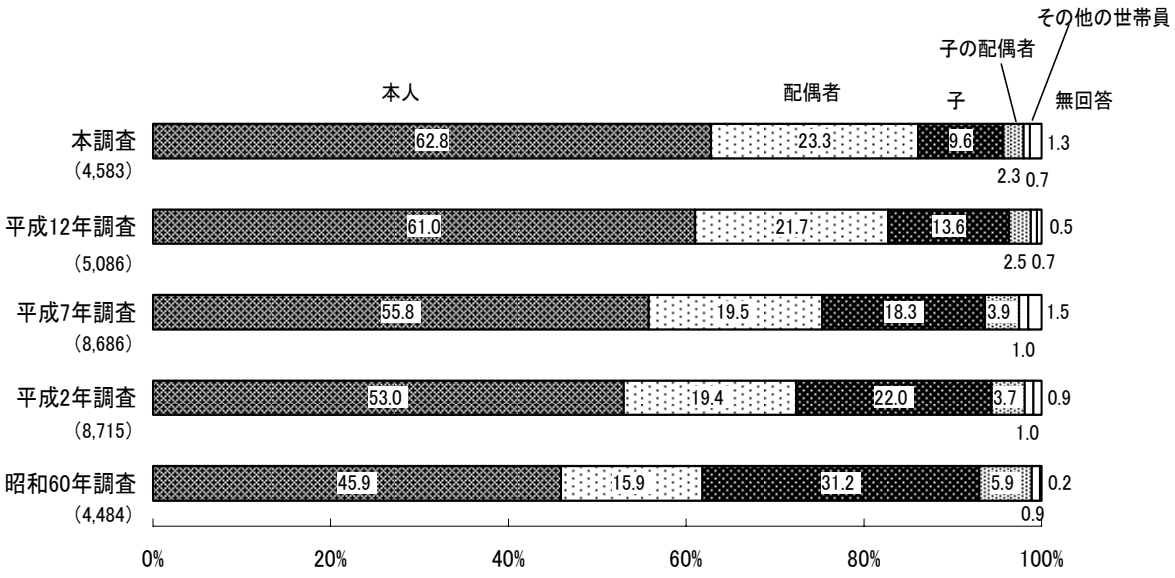
(4) 生計中心者

生計中心者が本人である割合は、男性では 9 割近くにのぼるが、女性では 4 割強にとどまる。

世帯の中での生計中心者を尋ねたところ、「本人」が 62.8%で最も多く、次いで「配偶者」23.3%、「子」9.6%となっている。(図 9-6)

過去の調査と比べると、生計中心者が「本人」「配偶者」である割合は一貫して増加している一方で、「子」「子の配偶者」は減少している。

図 9-6 生計中心者－過去調査（昭和 60 年～）との比較



性・年齢階級別でみると、生計中心者が「本人」である割合は、男性は 89.3%と 9 割近くにのぼるが、女性は 41.2%と 4 割強にとどまっている。女性では「配偶者」が 39.5%、「子」も 13.2%となっており、年齢階級が上がるとともに「配偶者」は減少するが、反対に「子」は増加し、85 歳以上では 34.0%と 3 人に 1 人に達している。(表 9-14)

最長職業別でみると、常勤の被雇用者では、「本人」は 79.4%と 8 割近くにのぼるが、自営業では 66.0%、臨時・パートでは 40.3%、家事専業（専業主婦）では 30.5%にとどまっている。

表 9-14　生計中心者－性・年齢階級、世帯構成（世代別）、最長職業別

		総数	本人	男	女	配偶者	夫	妻	子	子の配偶者	孫	その他の世帯員	無回答
総数		100.0 (4,583)	62.8	40.0	22.8	23.3	21.8	1.5	9.6	2.3	0.2	0.6	1.3
性・年齢階級別	男	100.0 (2,052)	89.3	89.3	－	3.3	－	3.3	5.2	0.9	－	0.2	1.1
	65～69歳	100.0 (645)	91.8	91.8	－	3.6	－	3.6	3.1	0.5	－	0.2	0.9
	70～74歳	100.0 (610)	92.3	92.3	－	3.0	－	3.0	2.6	0.3	－	0.5	1.3
	75～79歳	100.0 (419)	89.0	89.0	－	2.9	－	2.9	6.2	1.0	－	0.2	0.7
	80～84歳	100.0 (237)	82.7	82.7	－	4.6	－	4.6	10.1	1.7	－	－	0.8
	85歳以上	100.0 (141)	77.3	77.3	－	2.8	－	2.8	14.2	3.5	－	－	2.1
	女	100.0 (2,531)	41.2	－	41.2	39.5	39.5	－	13.2	3.4	0.3	0.8	1.5
	65～69歳	100.0 (634)	35.3	－	35.3	54.1	54.1	－	6.8	1.1	－	1.3	1.4
	70～74歳	100.0 (725)	37.5	－	37.5	49.4	49.4	－	8.6	2.3	0.1	0.6	1.5
	75～79歳	100.0 (536)	45.0	－	45.0	37.1	37.1	－	12.1	3.4	0.2	0.4	1.9
	80～84歳	100.0 (380)	49.7	－	49.7	21.1	21.1	－	20.3	6.1	0.5	1.6	0.8
	85歳以上	100.0 (256)	45.7	－	45.7	8.2	8.2	－	34.0	8.6	1.6	0.4	1.6
世帯構成（世代別）	単身世帯(ひとりぐらし)	100.0 (863)	99.1	25.0	74.0	－	－	－	－	－	－	－	0.9
	一世代世帯(夫婦のみ)	100.0 (1,700)	60.0	55.5	4.5	38.6	36.2	2.4	－	－	－	0.2	1.2
	二世代世帯	100.0 (1,294)	54.7	38.5	16.2	23.2	21.6	1.5	18.6	1.9	－	0.2	1.4
	三世代世帯	100.0 (619)	36.2	24.7	11.5	17.6	16.3	1.3	32.1	12.1	0.6	0.2	1.1
最長職業別	自営業(家族従業者含む)	100.0 (1,311)	66.0	45.7	20.3	19.2	16.9	2.4	11.1	2.1	0.2	0.5	1.0
	常勤の被雇用者	100.0 (1,920)	79.4	61.8	17.6	11.6	9.8	1.7	5.1	2.0	0.1	0.4	1.5
	臨時・パート	100.0 (345)	40.3	3.8	36.5	42.3	41.4	0.9	13.0	2.3	－	0.6	1.4
	家事専業(専業主婦)	100.0 (846)	30.5	－	30.5	48.2	48.1	0.1	15.7	3.5	0.4	0.4	1.3

就業・経済に関して寄せられた意見・要望の内訳は、次のとおりである。

就業	8 件
社会保障制度（年金等）の充実・改善	91 件
税金	15 件

【寄せられた意見・要望の一部の紹介】

○　高齢者の培ってきた熟練のキャリアを生かした就労政策を展開して下さい。（男性・60 代）

○　「就業の場の確保」をお願いしたい。フリーターの増加に伴い、仕事を奪い合うのが現状です。知識、意欲とも充分な高齢者が生き甲斐をも感じられるような働く場所、機会を提供して下さい。（女性・60 代）

○　職業訓練の場がほしい。専門的な知識を身につけたい。パソコン教室も本格的なものがほしい。学校は授業料が高い。（男性・70 代）

○　年金を減らさないでほしい。高齢者は年金を頼りにつましく生活をしているので、法律で急に減らされたり、介護保険なども年金から取らないで頂きたい。税金を取れるところから取るのはおかしいと思う。（男性・70 代）

○　医療費の負担分が、収入があるために、1 割が 2 割負担されるのは不公平と思う。不動産収入は老後を考えて、年金代わりに安定性を得るために得たもので、今になって税負担の対象になるのはおかしいと思っている。自営業のため、退職金もない、年金も国民年金では生活がしていけないということで、懸命に働いて得た成果である。まさかわずかな国民年金から介護保険料が差し引かれて手取りが減るとは思ってもみなかったことでした。（女性・70 代）

○　国民年金では生活が苦しい。公平な年金制度の拡充をして、国民年金の額の引き上げを考慮していただきたい。議員年金と比較しても不公平だと思う。（男性・80 代）

○　わずかな年金から介護保険、所得税など差し引かないでほしい。ぜいたく品等には消費税はやむをえないと思うが、日常品（食品など）には消費税負担を減らしていただきたい。（女性・80 代）

○　生活保護を受けて生活している人が、本当に体が悪くて働くことができないのか、実生活を調べてほしい。公正な支給方法を願う。（男性・70 代）

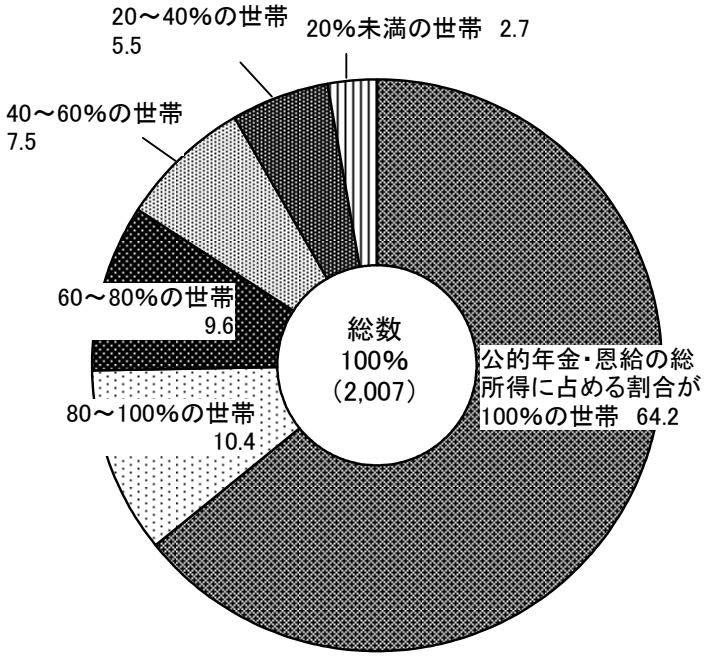
○　福祉・年金が、弱い者のところへしわよせがいかない様に。年寄りだけでなく若い人にも気を配らないといけない。（女性・60 代）

【参考】高齢者の年金の受給状況

高齢者世帯［注］における公的年金・恩給の総所得に占める割合をみると、「100%（所得は公的年金・恩給のみ）」は 64.2%にのぼっている。「100%」と「80～100%」を合計した割合は 74.6%にのぼり、約 4 分の 3 の高齢者世帯は、所得の大部分を公的年金収入のみでまかなっていることがわかる。（図 9-7）

また、その年金について、東京都の高齢者が平均してどのくらいの額を受給しているのかをみると、年に国民年金は約 64 万円、厚生年金は約 222 万円となっている。（表 9-15）

図 9-7　公的年金・恩給を受給している高齢者世帯における公的年金・恩給の総所得に占める割合別世帯数の構成割合



（注）厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成 16 年度）による。数値は全国平均である。

表 9-15　国民年金・厚生年金の平均年金月額

（単位：円）

		東京都	全国
国民年金	年間給付額	637,476	630,780
	平均年金月額	53,123	52,565
厚生年金	年間給付額	2,217,972	2,010,348
	平均年金月額	184,831	167,529

（注 1）社会保険庁「事業年報」（平成 16 年度）による。
（注 2）年間給付額は、平均年金月額を 12 倍したものである。

［注］高齢者世帯：65 歳以上の者のみで構成するか、又はこれに 18 歳未満の未婚の者が加わった世帯をいう。